

よい学習経験となるように導きます。

他の科も同様ですが、小児科でも限りなく忙しい時と、重症患者もなく、処置も少なく、実習時間に余裕ができてしまうことがあります。このような時には皆で集まってその時当面している看護上の問題または病棟管理上の問題やその他についてディスカッションをしたり、課題を与えて図書室で本を読ませたり、看護婦室に備えてある参考資料をしらべさせたりいたします。

さて、実習の最後の仕上げは評価であります。当病院では2週間ごとに学生の実習成績を評価し、学生と面接することになっております。評価にあたりましては、病棟婦長以下すべてのスタッフナースと臨床指導者はまず話し合い、実際に学生が取った態度や行なった看護に立脚して評価表に記入し、これを持って学生と面接いたします。

しかしこの面接は単に過ぎ去った日々 to 学生が行なった事柄を評価するだけの時でなく、学生と臨床指導者の人格と人格のふれ合う時であり、お互いによい人間関係を作りあげる機会であります。

まずこの実習場において学生の側に不満やその他の問題がないかを聞き、十分に発言させ、もし問題があればその解決法についても提案させます。そしてお互いに話し合っ て誤解や不審がないようにいたします。面接時には必ずその学生の長所を認め、賞讃し励ますことを忘れないようにします。これは実習に対する学生の意欲を燃やし、才能や能力をのばすために非常に効果的だと思います。私共臨床指導者の熱意と指導の仕方によって立派な看護の理想を抱かせることも、医療看護の向上のために研究的意欲を増させることもできると思います。同時に学生に自分自身の必要をさとらせるのもこの時であり、その学生がどうすればその弱点を克服できるか、また、どのようにすればもっとよく進歩成長できるかを考えて新たに良い決心をさせる時でもあります。

以上まとまりもなくまことに拙いことのみでございますが、日ごろ行なっておりますことを記してみました。

(東京衛生病院小児科臨床指導者)

編集デスク <16>

森鷗外は、書籍については実にきちんとしていた。古本屋を歩くのが好きで、観潮楼を中心に本郷の古本屋街はよく歩いて本を求めた。本の値を値切るということは絶対になかった。買った本は製本のくずれているものは自分で補修をした。東大にある鷗外の旧蔵書には、鷗外が製本し直したものや、鷗外自身の手で書名を記したものなどが残されている。

鷗外はこころよく人に本を貸したが、その本を返さない人には困ったようである。そのことをみづから述べている。本は、いつどの本が入用になるかわからない。だから一見必要でないように見える本でも、やはり手もとにおいてないと不便なのである。鷗外のように昼は軍務に服し

て実際に読書をしたり、ものを書いたりするのは夜や祭日の僅かな時間のみである人にとっては、必要で集めた本を貸し出してそれが返ってこないことは痛切に困ることであつたであろう。私にもその体験があるので、その気持はよくわかる。

書物の必要な部分とは、その中の僅

(本についてのエチケット)

——長谷川 泉——

に1行のこともある。しかし、何としても、その本がなければ解決できないことがある。それがいつ必要になるかはかりがたい。そのような、本の本質をよくわきまえて、本を借りる人には、本を借りるエチケットを持って貰いたいものである。ほかのことはきちんとしているのに、こと本の貸し借りになるとルー

ズな人がいる。困りものである。

ことは、他人の本ばかりではない。公共の本についても同様である。公共の本については貸し出しの事務はきっちりしているだろうが、場合によっては、そのルーズなのに便乗して、お貸しくだされになってしまうのも困りものである。リストにあっても、実物がないのは、多勢の人が読み破って損耗したのではなく、不心得者が返却を怠ったような場合が多い。必要に応じて自分で買い求めることのできる本ならば、その愛情の度は少いといえるが、他に入手の方法のないような貴重な本もある。雑誌などの必要な重要な部分が破損されているのも困るものである。本は共通の文化財であるから、それを借りたりする場合のモラルはもっと高められなければならないだろう。その点での日本人のモラルはあまり高くないようである。